

福島 の 今

復興支援プロジェクト

茨城大の学生らが、聞き書き調査の発表や映像で3・11後の福島県の姿を報告する会「今、伝えたい思い」が二十一日、水戸市の同大人文学部講義棟十四番教室で開かれる。東日本大震災後、大学が続けている復興支援プロジェクトの一環。東京電力福島第一原発事故で大きな被害を受けた人々の生の声、思いを、学生の目線で伝える。（林容史）

茨城大で21日報告会

社会科学科三年清水麻美さん（左）ら二人は昨年九月、福島大生の協力を受け、大熊町、川俣町などで聞き書き調査を実施。当日は、その結果を基に、原発誘致で原発関連会社に仲間が転職してしまった林業従事者、下水道から放射性情質が検出されて苦情を受けた下水道会社の社員、原発事故で全ての牛を失った酪農家たちの話を紹介する。

清水さんは「大震災後、三年半の経験なのに、いろいろの覚悟や決断があり、

まるで人生の話の話を聞いてい
るような、ずっしりとした
重みを感じた」と語る。
双葉町出身の人文科学研
究科一年小野田明さん制作
の映画「ある町」も上映。
原発事故後、全国各地に避
難している被災者を訪ね、
日々の生活で感じているこ
と、ふるさとへの思いなど
をインタビューした記録映
像だ。

また、榎葉町役場復興推
進課職員による講演もあ
る。原発事故時の住民避難
の難しさなどを体験に基

学生が伝える 生の声、思い

いて語り、原発事故は福島
だけの問題でないことを訴
える。質疑応答の時間も設
ける。

指導した人文学部の原口
弥生教授は「今の四年生
は、大震災で入学が一月
遅れた。学生が経験したこ
とを次の学生に伝え、次の
行動につながってほしい」と
期待を寄せている。

午後零時半からで、映
画、聞き書き発表、講演の
順。一般も参加可。入場無
料で、入退室自由。

問い合わせは茨城大広報
室Ⅱ電029（228）8
008Ⅱへ。



榎葉町役場の職員（左）から話を聞く茨城大の学生らⅡ福島県いわき市で（清水麻美さん提供）